関係団体ヒアリング　子育て分野（報告）

1　日　時　令和元年 7 月 16 日（火）　14：00～15：15
2　場　所　職員会館 4 階研修室
3　団体名　子育て支援センター運営団体
4　参加者　子育て支援センター運営団体　11 名
　　関係所属　子育て支援課、こども健康課、幼児課、こどもみらい課　4 名
　　合計 15 名

参加者の主なご意見

✿10 年前から良くなったこと✿

- 母親が働く率が急増して、子育て支援センター利用者のうち0～1歳児が多くなった。
- 支援センターが増えてきたことで、0 歳児が遊ぶ場所が増え、お母さん同士の経験値が高まった。更に子育ての世代間交流ができ、第 2 子～第 3 子の出産がしやすくなっている。
- 土日にオープンしている支援センターでパパの利用が増えて、パパの育児参加が増えている。
- インターネット社会の中で、生の声を聞ける場である支援センターは大切な場所になっている。
- ここ数年で医療費など様々な利用料が無料になってきた。
- 発達障害児に対する支援が充実してきた。幼稚園･保育園からの連絡や年齢によっては支援が早くなっている。

✿10 年前から悪くなったこと・最近困っていること✿

- ハートセンターの受診が半年待ちという問題が解決されていない。
- 支援を受けている人は受けているけど、出ていけないという人は支援センターに出て来れず支援を受けられないという状況は改善されていない。

- 子ども会がなくなった。
- 人と交わることが苦手になってきた親御さんが増えてきた。
- 人とつながらないで、自分たち個人個人での子育てが増えてきた。
- 我が子の事はすごく大事にするが、周りの人たち居てからこその子育てという認識を持っていない人が増えた。
- こどもの一時預かりが難しい状況になっている。
- 各子育て支援センターの考え方や取組みが違ってくるので、市の保健師等が全センターを共通の視点で見ていただくことが必要なのではないかと感じる。

✿これから 10 年間、市にして欲しいこと✿

- 支援センターという名称を変えて欲しい。特別な支援が必要な人が利用する場所というイメージがついている。例えば「子育て広場」とか。
- 支援センターの利用を 10 回に 1 回無料にするなど料金面で利用者の増加を促して欲しい。
- 子育て支援関係者全体のスキルアップが必要。赤ちゃん訪問する民生委員さんやママたちの研修の機会を保障することで全体的なスキルアップを目指すべき。子育ては価値のあることだという意識を高めていかないと、しんどいから誰かに任せてしまおうという人が出てくる。
- 出産前からの支援を行い切れ目のない支援にして欲しい。妊娠したら支援センターをどんどん利用することを働き掛けて欲しい。
- 子育てに関するいろいろな取組みが、バラバラと取組んでいるところがあったので、全体を包括的にコーディネート、連携をとれるような、それぞれが最高のパフォーマンスを発揮できるような枠組みを作って欲しい。
- 昔あったこどもセンターがあったらいいなと思う。
- 発達障害児への市の保健師さん等の具体的な取組みについて皆で話し合いが出来る場が欲しい。
- 切れ目のない支援ということで、妊娠中から子育てに関する内容を伝える機会を持つ事が大切ではないか。BP(Baby Program:親子の絆づくりプログラム)などの仲間づくりをするという面で早期の取組みは大切。
- ファミサポの利用があまりできない点があるので、ベビーシッターのような民間の人たちと関係をつくりあげてはどうか。
- 支援センターは地域にあまり認知されていない。民生委員や医療機関等の地域の中で手をつないでいくということ、顔の見える関係性が大切だと思う。垣根なく赤ちゃんを支援していく体制になっていって欲しい。
- 赤ちゃんが生まれたことを皆でお祝いできるムードが必要。大村市のように子供が生まれたらおおむらんちゃんを庁舎に飾るような、目に見える取り組みをしてはどうか。

✿これから 10 年間自分たちでしたいこと✿

- こどもの一時預かりなどの支援を拡大していきたい。
- 各センターで地域ごとの特色を活かしながら、お母さんたちのニーズにあったイベントを実施して

みたい。

- たくさんの赤ちゃんを産み育てるお手伝いをしたい。
- ママたちの就労サポートをしていきたい。